特集
J. Front in Motion
3

循環型経済に、挑む。

これまで社会は、大量生産・大量消費・廃棄を前提としたリニア・エコノミー、いわゆる直線型の経済システムを中心としながら発展してきました。一方で、そうした活動の結果が、資源不足、地球温暖化や廃棄物処理など様々な地球レベルの環境課題につながり、社会の持続可能性において大きなリスクとなっていることも事実です。

当社グループもそうした経済環境のもとで、お客様、社会に価値を提供し、長期にわたり成長を実現してきたということは決して否めません。サステナブルな社会の実現に向けては、この仕組みの見直しを避けて通ることができないのは明らかです。我々には意識や行動を変えるとともに、ビジネスモデルそのものを変革することが求められています。

リテールビジネスを中核とする当社グループの大きな特徴のひとつは、お客様とお取引先とをつなぐ役割をもつことにあります。例えば、問題意識を共有するお取引先と協業する、あるいはお客様に行動変容を促すよう働きかける。いわばサプライチェーンの真ん中に位置する我々であるからこそできることは、決して少なくないと考えています。

廃棄物のリサイクルなど環境課題に係るリスク低減につながる3R（リデュース・リユース・リサイクル）を積極的に実践し、ステークホルダーの皆様とともにサステナブルな社会の創造に貢献していきます。

Subscription

環境を意識したサブスクリプション事業

AnotherADdress

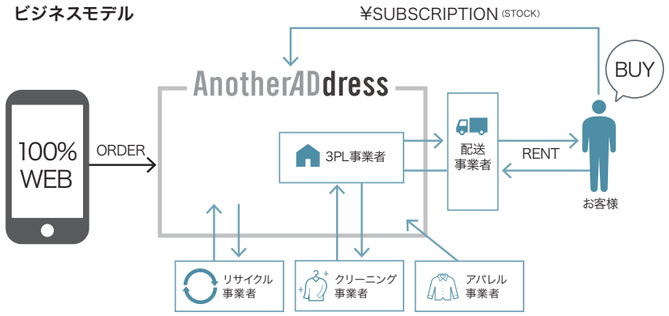
2021年3月にローンチしたファッション・サブスクリプション事業「AnotherADdress」は、“服は使い捨てではない”という信念のもと、ファッションの本質的な価値や、サステナブルな取り組みを重視し、社会や環境にとって持続性の高いビジネスモデルへ転換することを目指すサービスです。洗練されたブランドラインナップ、お客様がいま着たいものを選択できる自由さでファッションをサブスクライブする体験を創造し、既存事業にはない新たなマーケットを構築したいと考えています。

ファッションの貴重な資源を受け継ぐ役割を果たしながら、“アドレス”の中にある装うための“ドレス”1枚1枚に愛を込めて、ここから送り届ける未来に向けたサービスを目指します。ファッションには“人を元気に、愉しくする力”があると信じています。しかし、バブル崩壊以降の日本において、その力を感じる機会が減ってきているのではないでしょうか。当社グループは、その時代を彩るファッションをお客様に紹介することで、ファッション産業とともに発展してきました。所有や消費の意識が変化している時代だからこそ、クリエイティブな服が持つエンパワーメントをより多くの人に改めて伝えることは、いま当社グループが取り組むべきことだと考えています。

AnotherADdressでは、我々が事業主体者としてお客様からご注文いただき、独自のサステナブルな取り組みを推進されている3PL事業者、配送事業者、クリーニング事業者、リサイクル事業者とのパートナーシップを組んで、日々環境に優しい方法を模索しながら洋服をお届けします。

また100%WEB注文、サブスクリプション型のストックビジネスとすることで、従来の百貨店ビジネスが抱えるリアル店舗依存、フロービジネスからのビジネスモデルの分散にも挑戦します。

ビジネスモデル



Sustainable

Think GREEN ―お客様と取り組む「エコフ」

大丸松坂屋百貨店がサステナブルな商品やライフスタイルを提案する「Think GREEN」。その活動の一環である「エコフ」は、各店の店頭において、お客様から不要な衣料品や靴、バッグなどを回収し、再生化へのリサイクルや廃棄を防ぐリユースなどを促進する持続可能な取り組みです。

この取り組みは2016年度からスタートし、お客様の環境意識の高まりと積極的なご参加によって毎年成長を続け、先駆的なサステナビリティイベントとして定着しています。2022年度の回収量は約367t（2016年度からの累計回収量は約1,468t）となり、参加者も過去最高を記録しました。また、エコフと連動して、環境配慮型商品にフォーカスしたPOP UP等も実施しています。エコフの活動を通じて、多くのお客様から当社の環境への取り組みに対する支持を得ており、環境負荷低減につながる取り組みとなっています。

我々だからこそできる循環型経済とは何かをグループ全体としてさらに追求し、社会課題の解決を通じた経済価値の創出、すなわちCSV（共通価値創造）に取り組んでいきたいと考えています。

端材がアートに昇華

ホテルやオフィスの内装などを手掛ける当社グループのJ.フロント建装では、内装建材などの工場での製造過程で端材が発生することが避けられないのが現状です。そうした「捨てるしかない端材」の使い道は本当にないのかということについて常に考えを巡らせています。

そうした試行錯誤による活動の一環として、J. フロント建装は大阪芸術大学とタッグを組み、サステナブルプロジェクトを実施しました。大阪芸術大学の学生が持つ豊かな想像力と柔軟なデザイン力を活かすことにより、捨てられてしまうはずの端材に新たな命を吹き込み、誰も見たことのない新しい価値が生まれることになりました。

プロジェクトでは、「オブジェ」「家具」などカテゴリを定めず、あくまで学生の自由な発想に委ねた作品を募集することに。そこには、大阪芸術大学のどの学部の学生からも興味を持ってもらいたい、エントリーしてもらいたい、という狙いもありました。木の切れ端を中心に、リフェクスミラーの切れ端、使えなくなったフィルムなど、端材という不揃いな面白さと向き合いながら、自由な発想、コンセプトで、楽しくかつ真剣に制作されました。当社グループのサステナビリティにかける思いと学生たちのものづくりに対する思いが見事に結実することとなりました。

作品づくりの情熱にあふれた、企業と地元の大学生のつながり。同じ想い、同じ地域であるからこそ連携して生み出すことのできた未来のためのプロジェクトは、これからも続いていきます。